

会 告

第 58 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— 鉄鋼業における設備技術 ——

主 催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 58 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 第 58 回 昭 和 54 年 3 月 22 日 (木), 23 日 (金)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

(本講座は去る 3 月 1 日, 2 日岡山市で開催された第 57 回講座と同内容のものです)

II 演題ならびに講師

第 1 日 9:30~11:00 設備技術の近年の動向

11:10~12:40 鉄鋼設備の最近の進歩

13:40~15:10 圧延設備の最近の進歩

15:20~16:50 鉄鋼業における電気設備の最近の進歩

第 2 日 9:30~11:00 鉄鋼業における設備診断技術新

11:10~12:40 圧延設備における衝撃・熱問題

13:40~15:10 近年の鉄鋼電気設備の信頼性と問題点

15:20~16:50 圧延設備における保全技術

設備技術部会長・日本鋼管(株) 徳光 健一  
 新日本製鉄(株)本社 宮嶋 信雄  
 (株)神戸製鋼所加古川製鉄所 鈴木 昭男  
 日本鋼管(株)建設本部 小坂 宏夫  
 新日本製鉄(株)八幡製鉄所 金倉三養基  
 三菱重工業(株)広島研究所 井上慶之助  
 住友金属工業(株)鹿島製鉄所 板東 真治  
 川崎製鉄(株)千葉製鉄所 岩崎 重雄

III 講演内容

1. 設備技術の近年の動向 徳光 健一

経済環境の変化に伴い、鉄鋼設備技術面においても質的転換期に立ちいたっている。すなわち大型設備による高生産性の追求(大型化, 高速化, 省力化, 自動化等)及び環境保全関連技術開発の分野から, 省エネルギー, 省資源対策, および製品付加価値向上などの技術分野への展界, また設備保全技術における, 設備稼働率優先の機会損失ミニマムの思考から, コストミニマム保全への脱皮, さらには海外との技術交流面における技術輸出の増大傾向などがある。ここでは上記を背景とした, 近年の鉄鋼設備技術の動向について展望する。

2. 鉄鋼設備の最近の進歩 宮嶋 信雄

近年のわが国の鉄鋼設備の発展は目ざましく, 今や世界最高の水準に達していると思われる。しかるに石油危機に基く, 省エネ・省資源・環境問題の規制強化等きびしい技術対応が要求されている。

本講座では, 最近の鉄鋼設備に関して各種ニーズの変遷に対応し, 鉄鋼設備がどのような変遷を経て来たかを述べ, また将来の展望にも言及している。

3. 圧延設備の最近の進歩 鈴木 昭男

わが国の圧延設備は, 生産技術の広い分野にわたる活発な研究と共に大型化, 高速化, 自動化, 連続化, 計算機制御など画期的な発展を遂げ, 生産性, 品質, 歩留りの向上および省力化, 環境改善に著しい進歩をもたらせた。本講座では先ず, これまでの進歩の過程を顧み, 次いで最近のトピックス的な設備を数例紹介すると共に, 圧延設備を今日まで進歩させた背景にある周辺技術について述べ, 最後に将来方向について展望する。

4. 鉄鋼業における電気設備の最近の進歩 小坂 宏夫

鉄鋼業の発展とその環境の変化に伴い電気設備に対しても製鉄所固有の技術的課題がある。例えば負荷特性の変化に対する安定した電源の確保, すぐれた機械的電気的特性を有する大容量電動機の開発, 制御精度の向上, 省力化, 省エネルギー等があげられる。これらに関連して最近の構内電力系統, 圧延機駆動方式, 自動運転制御ならびに監視システム等について発展経過と代表例を述べその問題点と今後の展望についてふれたい。

5. 鉄鋼業における設備診断技術 金倉三養基

今から約 50 年程前に予防保全という概念が, アメリカに出現した。それまで消極的立場にあつた保全が漸く積極的な目的意識を持つようになった。しかし設備の寿命を予知する技術が存在しないため結局統計的な平均寿命をベースにした保全を行ってきたが, もし寿命を予知することができれば保全システムは根本的に改革されるであろう。その一つの試みとして当社で開発に取り組んできた設備診断技術をご紹介します。

**6. 圧延設備における衝撃・熱問題 井上慶之助**

設備の大形、高速、高性能化に伴う最近の技術の進歩はめざましいものがあるが反面技術的未解決の根深い問題がいくつか残されている。

ここではその一つである圧延設備の衝撃熱に関する技術的問題についてその本質さらにはこれに伴う強度上の問題点とその対策ならびに今後の進むべき方向について述べる。

**7. 近年の鉄鋼電気設備の信頼性と問題点 板東 真治**

近年の設備は、大型化、自動化されると共に、信頼性の要求も必然的に高まり、格段の進歩を遂げて来た。

しかし現場におけるトラブルは多様であり、それらのフィールドデータは必ずしも充分でない。近年建設の代表3製鉄所の電気品すなわち電動機、制御装置、その他につきメーカーの差はあるが、そのトラブルの傾向、分析を行ない技術的特徴のあるものについては、実例を載せ問題点並びに進歩の足跡今後に期待する課題をまとめる。

**8. 圧延設備における保全技術 岩崎 重雄**

最近の設備保全は、低成長時代に適した生産保全の思想から、守りの保全ばかりでなく、積極的に設備を有効利用する攻撃的なものに移行している。すなわち、合理的な設備点検方式・計画的補修工事の推進、保全情報管理の充実に加えて、種々の最新保全技術を十分取り入れ、予防保全、改良保全などの施策を駆使して推進される。これは、設備の安定化、保全の効率化、省エネルギー・省資源という総合的なコストダウンに発展している。

IV 聴講無料 (事前の申込は必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階  
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

## 昭和 54 年 鉄 鋼 協 会 行 事 案 内

行	事	期	日	場	所
<b>(講演大会)</b>					
	第 97 回 (春季) 講演大会	昭和54年 4 月 4 日 (水)~6 日 (金)		東京大学工学部	
	第 98 回 (秋季) 講演大会	昭和54年 10 月 16 日 (火)~18 日 (木) (申込締切・54年 7 月上旬)		名古屋大学工学部	
<b>(西山記念技術講座)</b>					
	第 58 回「鉄鋼業における設備技術」	昭和54年 3 月 22 日, 23 日		東京・農協ホール	
	第59・60回「製鉄技術の最近の諸問題」	昭和54年 5 月 30 日, 31 日 6 月 14 日, 15 日		東京・農協ホール 北九州・北九州勤労者会館	
	第61・62回「鉄鋼分析における最近の進歩」	昭和54年 9 月		東京・大阪	
	第63・64回「鉄鋼材料の破壊力学」	昭和54年 12 月		東京・北九州	
<b>(鉄鋼工学セミナー)</b>					
	第 5 回鉄鋼工学セミナー(製鉄・製鋼・材料コース)	昭和54年 8 月 6 日~10 日 (申込締切日・昭和54年 5 月 31 日)		三河ハイツ (愛知県額田郡 幸田町)	
<b>(国際会議)</b>					
	6th International Vacuum Metallurgy Conference on Special Melting and Metallurgical Coatings (協賛)	4 月 23 日 (月)~27 日 (金)		San Diego, California, U. S. A.	
	第 7 回日本・ソ連製鋼物理化学シンポジウム	5 月 21 日 (月)~23 日 (水)		Moscow, USSR	
	第 2 回日本・チェコスロバキヤシンポジウム	6 月 (予定)		Czechoslovakia	
	METEC '70-International Exhibition and Congress for Metallurgical Technology and Equipment (後援)	6 月 16 日 (土)~22 日 (金)		Düsseldorf, Germany	
	2nd International Conference on Martensitic Transformation (ICOMAT-II) (協賛)	6 月 24 日 (日)~29 日 (金)		Cambridge, Mass., U. S. A.	

## 昭和 55 年春季 (第 99 回) 講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

昭和 55 年春季(第 99 回)講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

### 1. 討論会テーマ

#### 1) 高炉用コークスの性状より見た石炭組織の評価 座長 美浦 義明

高炉用コークスに要求される品質基準に対する考え方は、解体調査を契機として長足の進歩を遂げた。一方、長期原料炭事情からみて、非粘結炭や粘結剤の使用技術開発が活発に進められている。

現時点における問題の焦点の一つは、“コークスの熱間性状”であり、すでに第 95 回大会討論会テーマとしてとりあげられた。そこで今回はこの問題を石炭の側から眺め、主としてコークスの熱間性状とコークスの異方性組織、気孔構造との関係からみて、原料石炭、粘結剤などをどのように評価すべきかについて討論したい。この分野は、石炭組織成分の乾留挙動(コークス生成過程)に立ち入った議論を必要とするだけに、今回の討論会を通じて今後の方向づけを行いたい。積極的な参加を期待します。

#### 2) ブルームおよびピレット連鑄の現状と問題点 座長 飯田 義治

連鑄比率の向上と共に、ブルーム及びピレット連鑄においても普通鋼から機械構造用鋼ならびに継目鋼管に代表される高級鋼までの広範囲に亘る鋼種が鑄造され、更に操業面においても

(1) 高速鑄造、多連鑄込による高生産性

(2) 無欠陥ブルーム又はピレットによる熱片装入

等の技術面の進歩が見られる。

今回特に高級鋼製造の際問題となる鋼種の表面性状、電磁攪拌等による内部欠陥防止技術、及び高生産性を達成するための操業技術について討論を行なう。

#### 3) UO 鋼管成形技術の諸問題 座長 大須賀立美

UO 鋼管の成形工程には端曲げ、U 成形、O 成形の 3 工程および溶接後の形状の均一化を行うための拡管工程があるが、これらの工程は何れも最終製品の形状、寸法精度に影響し、また最近ではラインパイプを中心に製品の高張力化、厚肉化が進んでいるため、ますます重要視されている。そこで個々の工程別または全工程総合した成形に関する理論的解析、実験およびそれら成果の現場製造技術への応用などに関する論文の発表をお願いし、関心ある方々による活発な討論を期待します。

#### 4) 海洋構造物用鋼材の問題点 座長 中西 昭一

最近、特に関心を集めている海底石油・ガス開発は、低温度海域で深海になり、波浪・強風・潮流等の海象条件も厳しくなつて来ている。

このような苛酷な環境条件に耐えうる海洋構造物用鋼材の必要性も益々増大しつつある。

特に鋼材の耐溶接割れ、耐疲労・耐応力・腐食・サワーガスによる破壊および腐食抵抗等多岐にわたる特性が要求されている。

これらの諸特性について、鋼材の施工・使用条件との関連で幅広い討論をお願いしたい。

#### 5) 連鑄材の表面処理の問題点 座長 安藤 卓雄

各種の鋼材表面処理製品には、その形状ならびに材質が均一で良好なことが、特に要望される。連鑄材は大型インゴット使用材に比して、これらの特性にすぐれた点が多く、このため表面処理製品むけ素材として賞用されつつある。しかしながら一方において、連鑄材は Si および Al を含有するセミキルド鋼あるいはキルド鋼であつて、リム層がない点でインゴット材とことなっており、またバッチ焼鈍作業に際しこれら元素の表面富化が見られるなど、作業性ならびに成品特性に影響をおよぼす因子を包蔵している。これらにもとづく諸問題に対応するため、近来新連鑄鋼種の開発と表面処理作業の改良が活発に行われつつあるので、その現状につき発表と討論をお願いする。

#### 6) 鉄鋼業の機器分析における今後の課題 座長 佐藤 秀之・副座長 井樋田 睦

発光分光分析・蛍光 X 線分析の本格導入以来、鉄鋼分析技術には瞠目すべき進歩・変革がないかのようなのである。しかし鉄鋼技術の不断の前進にともない、形にそう影のごとく、現状レベルを抜いて高度化・精緻化・総合化する分析技術の萌芽も散見され、今後数年の展開いかんによつては、大きくクローズアップする可能性も秘められている。かかる可能性を探求し、示唆し、あるいは解説する論文を募集したい。(発光分析による状態分析、表面分析手法、新しい励起光源の利用などが考えられるが、化学分析は除外したい)。

### 2. 申込締切日 昭和 54 年 8 月 6 日 (月)

3. 申込方法 「鉄と鋼」第 7 号に綴込みます申込用紙に必要な事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 54 年 11 月 5 日 (月)  
原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表, 図, 写真を含め 1 頁 6,700 字) に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。
6. 講演テーマ・「鉄と鋼」第 66 年第 1 号 (昭和 55 年 1 月号) にて発表いたします。  
講演者の発表
7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 66 年第 2 号 (2 月号) に講演内容を掲載いたします。
8. 討論質問の 昭和 55 年 2 月末日  
公募締切日 前記 2 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。  
申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階  
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

**International Conference on Steel Rolling**  
— **The Science and Technology of Flat Rolled Products** —  
**論文募集のご案内**

本会は 1980 年 (昭和 55 年) 9 月に「圧延に関する国際会議」を東京において開催することになりました。鉄鋼業近代化の中で圧延部門も著しい進歩発展を遂げたにも拘わらず、圧延部門単独での国際会議はこれまで開催されていなかったと思われまます。

本会では「圧延に関する国際会議」を開催して、世界各国の技術者、研究者からの論文発表と討論を通して技術の交流が深められ、参加者間の交歓と結びつきを得る場を提供することが出来れば、世界の鋼材圧延技術の進歩発展に寄与するものと確信しております。

会議のテーマに一貫性を持たせ、数年毎に継続開催して、圧延各部門毎に時間をかけて技術的討議を行なうことは有意義なことと考えます。

第 1 回会議のテーマとして、圧延技術の中で最も近代化されている Flat Rolling 関係を取り上げ、会議開催時点で最も今日的な問題に焦点を絞り、別記のテーマを設定しました。

会議の論文募集を下記のごとく行ないますので、ご希望の方は奮ってご応募下さるようご案内いたします。

記

1. 会議名 **International Conference on Steel Rolling**
2. テーマ・範囲 **The Science and Technology of Flat Rolled Products**
  - 1) Profile and shape control and new technique in flat rolling  
analysis, control scheme and sensor of profile, shape, gage, width and plane view of flat rolling
  - 2) Lubrication in flat rolling  
method and effect of lubrication in hot and cold mill, for example: rolling operation, roll wear, surface characteristics of products and lubricants, simulation technique
  - 3) Direct rolling and hot charge rolling  
new technique and its effect on direct rolling, in which slab by-passes reheating furnace or ingot by-passes soaking pit, and on hot charge rolling, in which slab is charged into reheating furnace at hot state
  - 4) Controlled rolling of flat products  
method for controlled rolling and its influence on metallographical structures and mechanical properties, the calculating formula for rolling load with emphasis on deformation resistance and measuring technique of deformation resistance
3. 期 日 昭和 55 年 9 月 29 日 (月) ~ 10 月 2 日 (金)
4. 会 場 東京経団連会館
5. 用 語 英語
6. 論文募集概要
  - 1) 予備登録 論文発表希望者は昭和 54 年 3 月 31 日 (土) までに所定の用紙にて申込むこと
  - 2) Abstracts 約 500 語の英文 Abstracts を昭和 54 年 9 月 28 日 (金) までに提出のこと
  - 3) 論文採否 論文採否は昭和 54 年 12 月 31 日 (月) までに通知します。
  - 4) 論文提出 昭和 55 年 5 月末日予定
7. 申込問合先 本会議の Call for Papers ご入用の方、講演申込ならびに問合先は下記の通りです。  
日本鉄鋼協会技術部国際課 (電話 03-279-6021)

### 第24回材料強度と破壊国内総合シンポジウム

共催 日本機械学会, 日本金属学会, 日本鉄鋼協会,  
日本材料学会, ○日本材料科学会, ○日本材料強  
度学会 (○印幹事会)

後援 日本学術会議破壊分科会

協賛 応用物理学会, ほか

日時: 昭和54年4月6日(金) 9:15~16:50

場所: 東京工業大学第3新館 331号講義室  
TEL (03) 726-1111

車の入校制限のため車による入校はご遠慮下  
さい。

交通の便: 東急目蒲線・田園都市線

大岡山駅下車徒歩3分

趣旨 本シンポジウムは破壊学の基礎とその実際への応  
用を目的とします。最近のトピックスや破壊力学  
とよばれている分野での研究における諸々の盲点  
を洗いなおして新しい研究方向を見出すことを  
目的としたセッションも加えてあります。奮って  
ご参加ください。

9:15 開会の辞 日本鉄鋼協会々長 荒木 透

〔I〕最近のトピックス (I)

〈座長〉石野 葉 (東大・工)

9:20 (1) 核融合炉材料の組織と強度に関する  
諸問題 東大工教授 井形 直弘

10:05 (2) 繰返し歪による歪硬化について  
静岡大工助教授 石井 仁  
——5分休憩——

〔II〕現在の破壊力学における錯綜とそれに対する  
新しい観点と研究 (第3回)

〈座長〉岡村 弘之 (東大・工)

10:45 (3) ミクロとマクロを結合したき裂の力学  
による破壊のクライテリオンと関連実  
験 (第II報)

東北大工教授 横堀 武夫  
——昼食 12:10~13:10——

〈座長〉川田 雄一 (明星大・理工)

13:10 (4) 破壊力学の歴史的展望II

13:30 (5) 組合せ負荷による破壊のクライテリ  
オンII (切欠およびき裂材の場合)

東北大工教授 横堀 武夫  
——5分休憩——

〔III〕最近のトピックス (II)

〈座長〉中村 正久 (東工大)

14:40 (6) ワシントン国際破壊力学シンポジウム  
の話題から

—破壊のケーススタディー—

東北大工助教授 沢木 洋三

東北大工教授 川崎 正

15:20 (7) 信頼性と破壊力学

東大工教授 岡村 弘之

16:05 (8) 高温材料 東工大教授 斎藤 進六

参加無料

シンポジウム論文集 (Proceedings of 24th National  
Symposium on Fracture), 約160頁, 1部2500円  
(送料別). 希望者はハガキにて希望部数及び送本先を

明記して, 下記要領にてお申込み下さい.  
(送料1部 300円)

○申込先 (980) 仙台市荒巻字青葉  
東北大学材料強度研究施設気付  
日本材料強度学会

電話 0222-22-1800 内線 4142

○締切 昭和54年3月10日(土)まで

○送金方法 振替用紙を論文集と同送しますので振替  
払込又は富士銀行仙台支店 口座番号  
822999 (日本材料強度学会)へお払込み  
下さい。

### 中国四国支部

#### 定時総会ならびに学術講演会ご案内

当支部では昭和54年度の定時総会と学術講演会を下  
記要領により開催いたしますのでご関係者多数ご出席下  
さいますようご案内いたします。

記

日時 昭和54年3月22日(木)10:00~15:30

場所 広島市東千田町「広島大学理学部2号館646号  
室」

次第 1. (学術講演…湯川記念講演)…10:00~12:00  
「高圧下の相転移」

広大理 藤原 浩

2. (定時総会)…12:00~12:40

議案 (1) 昭和53年度業務ならびに会計  
報告の件

(2) 支部役員改選の件

(3) 昭和54年度業務運営ならびに  
予算案の件

(4) その他の件

3. (学術講演…湯川記念講演)…13:30~15:30  
「熱延技術の最近の進歩」

新日鉄生産技研 中島 浩衛

### 東海支部

#### 総会並びに特別講演会

本会当支部では昭和54年度総会並びに特別講演会を  
下記により開催いたしますので, 多数御参加下さいます  
よう御案内申し上げます。(入場無料)

記

日時 昭和54年3月15日(木) 13:00~15:00

(1) 総会 13:00~13:30

(2) 特別講演会 13:30~15:00

場所 名古屋市中区丸の内3丁目1番6号

愛知県産業貿易館西館3階

第16会議室

特別講演 「我が国の自動車工業の現在と今後」

トヨタ自動車工業株式会社取締役 新美 格

第 67 回塑性加工シンポジウム

主題：金型の寿命とその向上策  
 日時：昭和 54 年 5 月 18 日 (金) 10:00~17:00  
 場所：電気通信大学  
 調布市調布ヶ丘 1-5-1 0424 (83) 2161  
 共催：日本塑性加工学会，日本機械学会，(予定)  
 協賛：軽金属学会，精機学会，日本金属学会，日本伸銅協会，日本材料学会，日本鉄鋼協会 (予定)  
 プ ロ グ ラ ム

午前の部 (10:00~12:10)

- 1. 金型の寿命とその要因 東大 前田禎三
- 2. 金型の寿命解析 技術士 中村哲也
- 3. 工具鋼の選択法 日立金属 吉田勝彦
- 4. 超硬合金の金型への応用  
ダイジェット工業 町野剛一

午後の部 (13:00~17:00)

- 5. 表面処理による金型寿命の向上
    - (1) TD プロセス 豊田中研 新井 透
    - (2) TiC 東洋工業 田村賢一
  - 6. プレス成形加工用金型の寿命とその向上策  
日産 能登 清
  - 7. せん断加工用金型の寿命とその向上策  
日立製作所 青木恒夫
  - 8. 冷間鍛造用金型の寿命とその向上策  
冷間鍛造 沢辺 弘
  - 9. 熱間鍛造用金型の寿命とその向上策  
トヨタ 成瀬安秀
- パネルディスカッション 司会 横浜国大 工藤英明

XXII. INTERNATIONALEN FEUERFEST-KLLOQUIM 1979 in Aachen

- 1. 日 時 1979年 9 月 27 日~28 日
- 2. 場 所 アーヘン，西独
- 3. 主 催 Das Institut für Gesteinshüttenkunde der Rheinisch-Westfälischen Technischen Hochschule Aachen

Das Forschungsinstitut der Feuerfest-Industrie  
 Der Verein Deutscher Eisenhüttenleute  
 Feuerfeste Baustoffe für Warm-und Wärmebehandlungsöfen in der Stahlindustrie  
 4. テーマ  
 5. 用 語 英，独，仏 3 カ国語 (同時通訳あり)  
 会議参加を希望される方は 1~2 ページ程度の英文アブストラクト (仏，独語も可) に論文題目，住所氏名を明記の上，下記宛お申し込み下さい。1979年 3 月 23 日必着といたします。なお，既に発表されている論文は無効とされます。  
 Institut für Gesteinshüttenkunde der RWTH Aachen  
 Mauerstrasse 5  
 D-5100 Aachen  
 GERMANY

Arc Physics and Weld Pool Behaviour

- 1. 日 時 1979年 5 月 8 日~10 日
- 2. 場 所 The Kensington Close Hotel, London, U. K.
- 3. 主 催 The Welding Institute  
USA, Canada, Japan, USSR, Finland, South Africa Norway, Federal Republic German U. K. より 42 論文が発表される予定です。

参加申し込み及び会議の詳細につきましては下記宛にお問合せ下さい。

Mr. J. L. Sanders  
 Manager Communications  
 The Welding Institute  
 Abingron Hall, Abington  
 Cambridge CBI 6AL  
 England  
 Telephone (0223) 891162

正 誤 表

「鉄と鋼」64 (1978) 9, pp. 1333~1342  
 「酸素製鋼法における反応モデルについて」

頁	行 目	誤	正
1336	Fig. 1, Fig. 2	residual ratio	residual rate
1340	左上から 1 行目	が増	削除
1341	左上から 1 行目	1 第	第 1

「鉄と鋼」64 (1978) 14, p. 2109~2118  
 「連続脱磷炉による溶銑の予備処理について」

2112	右下から 3 行目	条 6	第 6
2114	右上から 11 行目	26	2, 6
2114	右上から 12 行目	浅	深

## 情報を先取りしません? JISTIC

### —「鉄鋼技術情報」誌 新編集方針のお知らせ—

購読, その他「鉄鋼技術情報」誌の掲載記事に関するお問合せは, (社)日本鉄鋼協会鉄鋼技術情報センター (JISTIC) にお願ひ致します。

住所 東京都千代田区大手町 2-7-1 日本ビル別館 TEL 03-241-1228 (代)

日本鉄鋼協会鉄鋼技術情報センターの発足と同時に, 日本鉄鋼連盟から移管された同センター機関誌「鉄鋼技術情報」は業界のニーズに答えるため, 本誌の内容を再検討して次のような新しい編集方針をたてました。

(1) 読者は現場の中堅技術者を対象におくこととし, 情報の網羅性はある程度犠牲にしても迅速性を重視します。情報源としては, 航空便で入手の米, 英, 独, 仏, ソで発行の代表的な鉄鋼専門および鉄鋼関連の技術雑誌を約 20 種(別表 1 参照), また国内誌については鉄鋼会社および鉄鋼関連会社の技報類(別表 2 参照)について迅速抄録し, またその他雑誌類については簡単な記事紹介程度にとどめ, これらを原情報源刊行後 2~3 カ月内には原則として本誌に掲載します。

(2) 世界の鉄鋼設備動向

海外 News 誌(別表 3 参照)からの選択記事を和文にて迅速に紹介します。

(3) 本センターでは約 200 種の会議(多くは国際会議)の Proceedings または Reprint を収集しますが, このうち読者に推しようできるものについては簡単な解説を加えて紹介します。

(4) U. S. Government Report, IIW 資料その他特殊資料の目次を紹介します。

以上のように従来とは全くその内容を変えた本誌と速報性の点で太刀打ちできる他の抄録誌が果してあるでしょうか。本誌は皆さんの業務にお役に立つものと確信します。

御購読の申込をお願いします。購読料は年間 4,800 円(送料込み)です。

別表 1 航空便で入手している雑誌。

Act. Metallurgica

Archiv für das Eisenhütt. (独)

Corrosion (米)

Iron Age (米)

Iron and Steel Eng. (米)

I & SM, Iron and Steel Maker AIME (米)

Ironmaking and Steelmaking (英)

Metal Construction B. W. J. (英)

Metall Progress (米)

Material Evaluations (米)

Modern Casting, American Foundry Soc. (米)

Pipeline and Gas Journal (Monthly) (米)

Révue de Métallurgie (仏)

Schweissen und Schneiden (独)

Stahl und Eisen (独)

Welding Journal (米)

33 Magazine (米)

Avtomaticheskaya Svarka (ソ)

Koks i Khimiya (ソ)

Metallurgicheskaya i Gornorudnaya Promyshlennost' (ソ)

Metallurg. (ソ)

Ogneupory. (ソ)

Stal' (ソ)

閲覧等図書室サービスを必要とされる方は JISTIC (TEL 03-241-1228(代)) に御連絡下さい。

(別表 2)

(鉄鋼関係)

製鉄研究, 日本鋼管技報, 川崎製鉄技報, 住友金属, 神戸製鋼技報, 日新製鋼技報, 日本製鋼所技報  
東洋鋼板, 三菱製鋼技報, 日本ステンレス技報

## (鉄鋼関連)

三菱重工技報, 石川島播磨技報, 日立造船技報, 日立評論, 横河技報, 不二越技報,  
川崎技報, 品川技報, 播磨耐火技報  
なおこれ以外の技報を追加の予定

## (別表 3)

A S... (Arabe Steel) (月), AMM... (American Metal Market) (日),  
C D S... (Corriere Della Sera) (週), C I... (Continental Iron and  
Steel Trade Reports) (旬), E U... (Europe) (日)  
F A Z... (Frankfurter Allgemein Zeitung) (日), I A... (Iron Age) (週),  
I L S... (IL Sole 24 ORE) (日), H B... (Handelsblatt) (日),  
W S J... (Wall Street Journal) (日), 3 3... (Metal Producing 33) (月),  
M B... (Metal Bulletin) (3月), M T... (Montan) (日),  
(ソ連) I Z... (Izvestiya) (日), P R... (Pravda) (日),  
S I... (Sotsialisticheskaya Industriya) (日),  
E G... (Ekonomicheskaya Gazeta) (月2回)  
(韓国) 東 経... (東洋経済日報) (日), その他若干の海外紙  
注) 月...月刊, 日...日刊, 週...週刊, 旬...旬刊  
購読料 1カ年分 4,800円 (送料共)  
半カ年分 2,400円 ( " )

## 書 評

## A Guide for Better Technical Presentations

Edited by Robert M. Woelfle

## 技術発表のすべて

## — 知的職業人のための発表の手引 —

宇都宮敏男・富樫 順亮 共訳

「発表—それは分業化した現代社会の本質的な要請である」という冒頭の一行に始まるこの論文集には、それぞれの専門家によって書かれた 21 編の論文が次のように分類、収録されている。

I. 概説, II. 計画と準備, III. 視覚教具, IV. 演説の技術, V. マルチメディアによる発表, VI. 映画。

数分間の口頭発表にも、何年もの背景、何カ月かの研究とデータの収集が反映されていなければならない。そのためにはどんな方法があり、どうしたらよいのか？

きめ細かい計画と準備、さらに念入りなりハーサルを経て演壇に立ち、序論の中で聴衆を引きつけ、「聞きたくも知りたくもない」という気持ちを「参加できたことを感謝します」という気持ちに変えるような発表をしなければならぬ。この本には、そのための発表内容のまとめ方、演説の仕方、スライドなどの視覚教具の作成法および利用法などいろいろな角度から検討され、わかりやすく紹介されています。

振り返って、私達の身近で経験できる発表講演や使用されているスライドをこの本の基準に従って評価した時に、果たしてその何%が合格できるでしょうか。

素晴らしい論文を書ける人でも良い発表のできない人は真の専門家でないと言われ、発表をマスターすることは専門家としての成長の一課程であると言われております。叶うことであれば、まずこの小冊を一読されてから講演大会の演壇に立つて欲しい、というのが素読したあとの卒直な感想であります。(本会講演大会分科主査 郡司好喜)

A5判, 294頁, 丸善発行, 3,000円